

開催の主旨

かつて、徳川家康は、この地で「小山評定」を行ない、日本の歴史をかえました。そして今、「まちづくり小山評定」を起こして、かつては賑わいのあった小山駅西口の街を皆様のアイデアで変えようという取り組みの一環で実施したものです。

今回は、街並みデザインやまちづくり提案、街（まち）の活性化などの視点から、まちの顔の部分である小山駅から思川までの「祇園城通り」とその周辺空間を対象地区として、小学生からお年寄りまで、小山市民だけでなく、全国から広くユニークかつ力強い魅力的な提案（アイデア）を募集しました。

これを機会に私たちのまちをもう一度見直し、どうあるべきかを皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

テーマ

「魅力と賑わいのある街並み空間の創出」

部門と受賞者

<一般の部>

最優秀賞……………黒澤スタジオ

(黒澤保幸、今泉卓也、石田修平、
熊谷 建、斉藤貴明)

優秀賞……………浜川敏路

小山商工会議所会頭賞…松下 陽

祇園城通り連絡協議会会長賞…阿部真人

アイデアコンペ特別賞…寺岡俊太郎

アイデア賞……………板谷麻里恵

アイデア賞……………宮川央輝

ドリーム賞……………阿部浩幸

祇園城通り連絡協議会奨励賞…結城史隆

<小人の部>

最優秀賞……………佐瀬結香

優秀賞……………高橋ともか

アイデア賞……………小笠原 嶺

小山商工会議所奨励賞…江口 奏

入選作品 (一般・デザインの部)

■最優秀賞■「新・小山STYLE」：黒澤スタジオ (黒澤保幸、今泉卓也、石田修平、熊谷 建、斉藤貴明) (東京都八王子市・日本工学院八王子専門学校建築デザイン研究科)

3つのゾーン、4つの辻、まちかどひろばをつくる

■「新・小山STYLE」(小山独自の生活・文化)をつくる
小山市は、東京から60kmに位置し、高速道路へのアクセスも容易であり、幹線道路によって東京や、北関東の各都市と結ばれています。また、新幹線、JR東北本線、国毛線、水戸線が交差する駅であり、自動車と鉄道の両交通網において利便性のよい町です。



市内には白鴎大学や関東職業能力開発大学をはじめ、高等専門学校や私立専門学校など、専門知識・技能を育成する教育機関があります。また産業面では、「小山ブランド」として地域産業の振興に取り組んでいます。2020年に向けての新しい小山の街づくりは、これら地域の特性を最大限に活用してゆとりある生活とゆたかな地域コミュニティの確立を目指した、「新・小山STYLE」というテーマを提案します。



■街で育てる・街が育てる・街を育てる

新・小山STYLEは「街で育てる・街が育てる・街を育てる」というキーワードを中心に実現してゆきます。
・子育て支援による安心して子育てができる街づくり
・学生の美談・発表の場を作り人材を育てる街づくり
・起業支援(ベンチャーインキュベーション)によりビジネスを育てる街づくり
・これらの取り組みが人やビジネスを定着させ、街を育てる街づくり
こうしたことを実現するために、小山市内の潜在的な資源を整理し人が集うことにより、街の機能を発展・強化します。

小山市の潜在資源

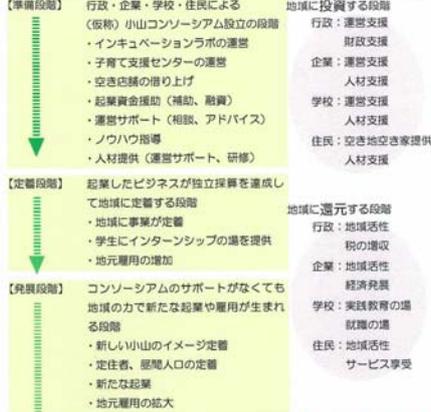
- ・**人材資源**..... 高等教育機関の教員・学生など専門的知識を持った人材
- ・**産業資源**..... 小山ブランドなどの地域産業のほか、地元企業の技術力
- ・**文化資源**..... 小山城跡、思川などの歴史文化や自然景観、および小山祇園祭、流し餅、小山の花火などの文化イベント(観光)資源

(仮称)小山コンソーシアムを設立し、企業、人材、空き地、空き店舗、などの情報を管理・提供し、インキュベーションラボや子育て支援施設の運営をサポートします。

まちの4つの機能を強化



■(仮称)小山コンソーシアムのフロー



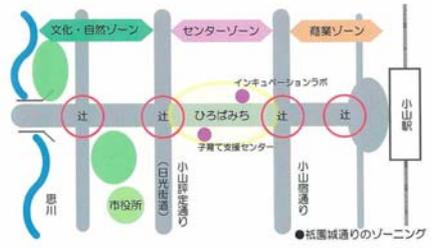
1/2

新・小山STYLEのソフトづくり

- 地域に投資する段階
行政: 運営支援
財政: 財政支援
企業: 運営支援
人材: 人材支援
学校: 運営支援
住民: 空き地空き家提供
人材支援
- 地域に還元する段階
行政: 地域活性化
税: 税の徴収
企業: 地域活性化
経済発展
学校: 実践教育の場
就職の場
住民: 地域活性化
サービス享受

■3つのゾーンと4つの辻

「新・小山STYLE」の実現に向けて人材や地域住民が自然に集まれるようなまちの骨格を整備します。これまでのような大型施設の建設ではなく、地域の空き地や空き家を利用しながら活性化するための小さくても確かな骨格をつくります。小山市の玄関口である小山駅から、市役所や小山城跡があり小山を代表する景観である思川までのアプローチとなる祇園通りを3つのゾーンとして捉え、節となる4つの辻に小山をテーマにしたミニ広場(まちかどひろば)を提案し持ち合わせやリフレッシュに利用できます。センターゾーンは、広い歩道をさらに生かせるように「ひろばみち」をコンセプトにして道全体が広遠のようになり人が集まる空間として整備します。また、ここにコンソーシアムの核となる「インキュベーションラボ」を提案します。



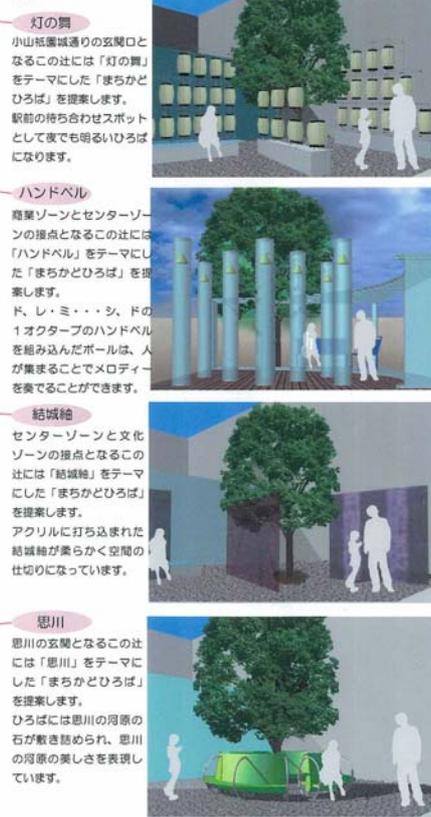
■ひろばみち

祇園通りのセンターゾーンは、「ひろばみち」として整備します。これは道の機能に広遠の機能を加えるものです。普段は今までの道として機能し、休日や特別なイベントのときは、歩道が拡大したり、歩行者天国にしたりして人が集い交流する「ひろば」となります。小山のシンボルロードのセンターゾーンとしてさわさわいように、街路樹を桜の木にして、桜の名所である祇園城跡、思川河原へと人々を導きます。また、歩道にストリートファニチャーを設置します。



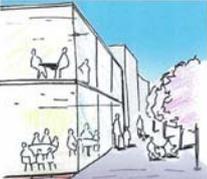
■まちかどひろば

4つの辻には小山の地域性をテーマにした「まちかどひろば」を提案します。センターゾーンの街路樹は市の花「サクラ」、まちかどひろばには、日差しを和らげる木陰に人々が集まるイメージで、市の木「シラカシ」をシンボルツリーとして提案します。



■まちなか子育て

「平日の昼間、ペニーカーを押しながら通りのカフェまでお散歩。」「2020年の小山のまちに活気を与えているのは小さな子を持つお母さん。」そんなまちにするために、子育て支援センターを提案します。ここは、若いお母さんたちの交流の場であるとともに、地域の保育系の学生たちの実習の場でもあります。



■まちなかインキュベーター

「学生生活の間に小山で起業。」「地元企業や商店の協力を得て新しいビジネスモデルの実践。」そんなまちにするために、インキュベーションラボを提案します。ここは、地域の企業ニーズと学校(学生)の実践成果を結びつけるためのリエゾン機能を主な目的とします。地域の経済界とも協力して資金、人材、経営のコンサルティングも行います。ラボ自体の運営も学生が積極的にかわかり、経営・経済系の学生たちの実践の場にもなります。「まちなかベンチャー」や「まちなかギャラリー」の運営も行います。



■まちなかベンチャー

地域の空き地や空き家をコンソーシアムが借り上げ、インキュベーションラボが起業家(学生だけでなく一般起業家も含む)に貸し出します。(6ヶ月~2年程度で更新)ベンチャー企業というより、通常の店舗ではなく、空き店舗を利用して学生が気軽に店舗を出せるような小さな規模のビジネスも支援します。

■まちなかギャラリー

地域の空き地や空き家をコンソーシアムが借り上げ、インキュベーションラボが利用者(学生だけでなく一般の人も含む)に貸し出します。まちなかベンチャーのギャラリー版で、通単位、月単位で空きスペースを活用します。芸術系グループの展示、大学や企業の研究成果の発表展示などのほか、地域の子供たちの作品展、御神輿や半端の展示なども行います。

2/2

「新・小山STYLE」【作品主旨】

2020年に向けての新しい小山の街づくりを「新・小山STYLE（小山独自の生活・文化をつくる）」というテーマで提案する。また、「街で育てる・街が育てる・街を育てる」というキャッチコピーのもと、ソフト面では小山市の潜在資源を活かした子育て支援や学生・起業家などの人材育成、（仮称）小山コンソーシアムの設立を提案。ハード面では小山駅から思川までを「商業」「センター」「文化・自然」の3つにゾーン分けし、祇園城通りの4つの辻をそれぞれ「灯の舞」「ハンドベル」「結城紬」「思川」とテーマの異なる「まちかどひろば」として整備することを提案。特にセンターゾーンでは、より賑わいを演出するため幅広い歩道を活用して道の機能に広場の機能を加えた「ひろばみち」とすることを提案する。

人が集まれる街づくりと、人が集まることを活用した街づくりで活性化をはかります。

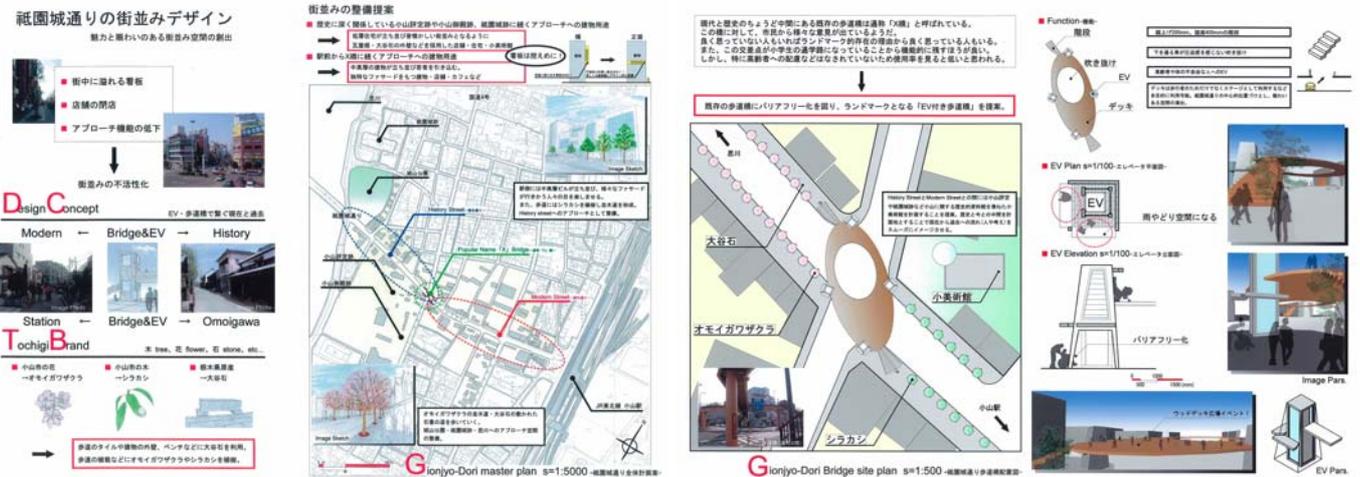
「新・小山STYLE」【審査講評】

この作品は、祇園城通りを局所的でなく、小山駅から思川まで全体として捉え、地域の現状や特性を踏まえたゾーニングを行っている。その上でまちの活性化の骨格となる「まちかどひろば」や「ひろばみち」の整備、小山市の潜在資源を活かした学生・起業家などの人材育成や子育て支援等の提案をイメージ図や概念図、フロー図を描くことにより、提案内容が分かり易く表現されている。また、これらを実現するための仕組みとして、（仮称）小山コンソーシアム設立の提案をするなど、ハード面のみならずソフト面からも幅広い視野でまちづくりの提案をおこなっており優れた作品である。

入 選 作 品 （一般・デザインの部）

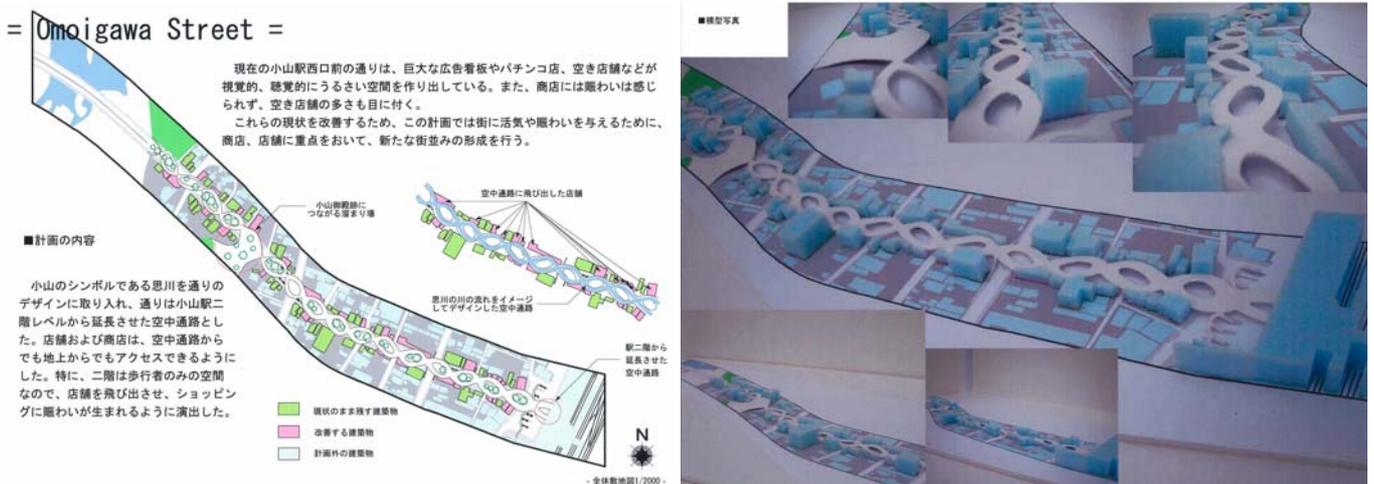
■小山商工会議所会頭賞■「エレベータ・歩道橋で繋ぐ現在と過去」

：松下 陽（埼玉県さいたま市・小山高専建築学専攻科学生）



■アイデアコンペ特別賞■「Omoigawa Street」

：寺岡 俊太郎（栃木県佐野市・小山高専建築学専攻科学生）



■ 祇園城通り連絡協議会会長賞 ■

「評定広場のある、祇園城通りを回遊する夢」

： 阿部真人（宮城県東松島市・介護福祉士(フリー)）

祇園城通りはロブレからふれあい橋の中間に位置し、コミュニティ広場では、小山評定の再現やイベントの開催で、観光客を呼び込み賑わいを取り戻していた。

広場の小山評定所では、評定サミットが開催され、徳川家康や山内一豊等武将の旧藩の首長等が評定後のあり方などに檄を飛ばしていた。結城紬のからくり人形が、小山評定を分かりやすく演じていた。デートの場、からくり時計のモニュメントの前にあった、木彫りのセグロセキレイのついたシラカシのベンチに座ると、さえずりや小山評定・買物情報などが流れていた。ギネスの長いのり巻きには、干瓢が乗せられていた。

空店舗を利用したアンテナショップでは、旧藩の観光案内や特産品の販売があり、レストランでは小山の郷土料理や各藩の料理も食べられた。空ビルもアトリエや音楽練習場、工房、しゃれたカフェなどに変わり、若者のファッションで溢れていた。2階以上は障害者や高齢者等のグループホームなどになり、若いスタッフも近くに住んでいた。店主も店に住いし、朝通学生や行く人々に元気に声がけし活気があった。店内は若者のニーズに合わせた品揃えが多く、まるで六本木を歩いているようだった。

沿道はオモイガワザクラがきれいで、コンテストの俳句や川柳等の行灯、閉ざされたシャッターにはアニメ等が描かれ華やかだった。評定祭はハッピーを着たギャルたちが、からくり評定神輿を担ぎ、稚児行列、地元学校のパトナールやプラスバンド、大道芸人等が続き、沢山の観光客はおしみもなく拍手を送っていた。運営は若いまちづくりのリーダーや経営ノウハウのもつ団塊の退職者などを巻き込んだ地元のNPO 法人だった。

ね！お願いだから、私の夢を壊さないで！

■ アイデア賞 ■

「都市の中に〈田〉をつくる！！」

： 宮川央輝（山口県小野田市・会社員、NPO 代表）

都市の中に〈田〉をつくる！！

■ シンボルロードから〈田〉の街づくりへ



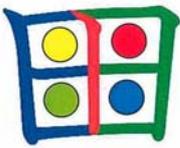
■ 今回の対象区間である「祇園城通り」では、都市の玄関口となる「JR 小山駅」から、小山市役所を通り、母なる川「思川」と「城山公園」などの主要施設を結び、都市の大骨格としてふさわしいシンボルロードが構築されました。

■ しかし実際に訪れる人々にとっては、延長650mに及ぶこの構造は、人が街に親しむには少々大きすぎるといえます。

■ 今後、「魅力と賑わい」を創出するためには、主体となる人々

が身の丈にあった街巡りを楽しむことができる〈田〉の回遊路を街の中に描かなければいけません。そこではシンボルロードは田の中心軸になります。そこで小山市に〈田〉の人の回遊を作るためのアイデアを提案します。

■ 〈田〉の街巡りプラン



■ まずは「ここは買い物街」「ここは家族で楽しめる場所」など、生活する人々が直感的にまとまった地区のイメージを持つレベルで街を考えることが成功の鍵となります。

■ そこでシンボルロードを挟んで南北に地域を分け、さらに街の特性に合わせて地区づくりを行います。

■ それぞれのシンボルロードの背面地区は人がふれあう交流活性空間として位置づけ、地域の特性にあったチャレンジショップコンベンなどを出店を図ります。

■ さらに、路地のネーミングや地区のピクトグラムマークを表示して、人々の地区巡りをサポートしながら、さらに街への探求心を煽る演出を図ります。

■ また、商店前にお店が管理するレンタルベンチや、商店街巡回などの安全な裏通り運動を図りながら、人の手がかかっていることがわかる街づくりを図っていきます。

■ これで小さな地区の回遊から地域の回遊へ、そしてシンボルロードを軸とした街としての回遊環境を整えます。これらの地区づくりには、今後も街づくりの原動力を発揮するため地域や商店街の人々のワークショップを交えながら行う必要があります。

以上

■ 祇園城通り連絡協議会奨励賞 ■ 「祇園城通り活性化プロジェクト」：結城史隆（小山市・教員）

今般、まちづくり三法が改正された。これは、三法が整備されても、多くの地方都市において中心市街地が活性化されるどころか、ますます衰退していることを示している。それだけ、中心市街地の活性化は重要であるとともに困難な課題であり、単発的な思いつきを重ねても解決の道は見えない。現状を厳しく分析し、客観的判断のうえで、プロジェクトとして総合的かつ大胆に考えていく必要がある。

「祇園城通り」をSWOT手法で分析してみると、基本は以下のように考えられる。

強み： 駅に近い。電柱のない、幅広の歩道がある。

弱み： 情性的と見られる商売が多い。大型店と競合しない特色ある商店が少ない。若者に魅力ある店が少ない。通りを歩く必然性が少ない。統一性が全くない。

地域や店舗に関する情報が発信されていない。

機会： 中心市街地活性化法が改正された。経済産業省が支援措置を行う。

脅威： 店主、居住者の高齢化が進む。後継者が育たない。

「機会」と「脅威」は多くの地方都市に共通した背景であり、「強み」と「弱み」は祇園城通りの現状である。プロジェクトを形成するには、状況を的確に把握し、「弱み」の解消をめざし、「強み」を強化していかなければならない。

「祇園城通り」の「弱み」を一言で言うと、現代に適合した商店街になっていないということである。大型店にはなくて、買いたくなるものを揃えている店はほとんどない。「いま、街は楽しくない」のである。活性化に最も有効で効果的なのは、一度白紙に戻して21世紀に適した街に作り変えることであるが、私権に関わる問題を公共性の観点から強制することはできず、長期的視野にたつてビジョンをつくるしかない。以上を前提として、

いくつかの提案を行う。

(1) 長期的・根本的対策（中心に人の集積）

・ 祇園城通り駅前からX歩道橋までの両側を統一感のある中高層（6～7階）の共同住宅とし、一階に店舗を入れる。居住住民を増やすことで活性化する。

・ 市役所を道の駅「思川」の隣接地帯に移動。跡地を伝統と緑の公園などにする。

(2) 短期的対策

・ （仮称）祇園城通り連絡協議会に「研究部」を設け、店主、地権者、行政、学識経験者、一般市民などで、活性化するにはどうしたらよいか本気で調査研究する。

・ 祇園城通りを「情報発信通り」とする。掲示板を歩道にずらっと並べ、コンサートや学習会、イベント、嘉禎教師、不用品譲渡などさまざまな情報を受信できるようにする。（「歩くと発見する、歩くと得する」通りとする。）

・ 歩道にしゃれたベンチとテーブルを置き、日向ぼっこや井戸端会議の場とする。

・ 若者のストリート・パフォーマンスをできる場や小山アーカイブ（写真による歴史館）をつくる。

・ ミニコミ誌の配布・広報にボランティア・センターなどが積極的に関わる。

・ 風俗関係店、遊戯場などは他所に集め、祇園城通りに面したところからは撤廃させる。



祇園城通りのイメージ(ただし、伝統ある街を演出)

入 選 作 品 (小人・作文の部)

■最優秀賞■「人が来る街」

：佐瀬結香（小山市・小山中学校3年）

今、自分が住んでいるこの小山市にたくさんの方が来てもらうためには、もっと大きな名物をつくること、そして小山市に住んでいる人々が明るく暮らすことが必要です。

例えば、名物なら大きなショッピングモールを建設し、たくさんの方がそれを目的に訪れてくれたりすれば地名度も上がると思います。しかし、ただ大きなものを建てるだけではいけないと思います。品物を豊富に揃えて、設備も整えて、身体障害者の方が盲導犬や介助犬を連れて入店することを快く受け入れてくれれば、お店に行きやすいと思ってもらえるはず。ショッピングモールだけでなく、私達市民がよく行く駅前の大通りを今まで以上に良い雰囲気にするのです。出来れば小山市の玄関口である駅前のゴミを少なくしていけば、小山市に来た人達から「また来たいな。」とか「雰囲気の良い街だったな。」などと言われるようになるはず。私達市民が変わるといえる事。小山市以外でもそうですが、私達は顔なじみの人々としがこいさつというものを交わさないと感じました。私は以前、海外では旅行者が街のたくさんの人々と接しているということを見てきました。あいさつは、人と人とのコミュニケーションです。あいさつを交わしていけば、それがたとえ他人であっても気持ち良くなるはず。人が来る街とは、観光地があるから、大きなショッピングモールがあるからということだけではないと思います。あいさつを交わし、周りの人々を通して優しい心を持つ事が大切です。訪れて来た人が「小山市の人は良い人ばかりだった。」と良い評判ができて初めて人が来る街になるのではないかと思います。

■優秀賞■「人が来る街 ～歴史伝統を生かす～」

：高橋ともか（小山市・小山中学校3年）

私は、修学旅行で京都に行きました。それを通して、小山市へ提言したいことがあります。それは「歴史と伝統を現代に生かす」ということです。

例えば、京都には歴史のある神社やお寺が、当たり前のように街中にありました。そして、その建物の敷地内はきれいに整備されていました。観光客もとても多く、その建物を見物するために、全国各地から人々が訪れてきます。小山市には京都ほどの大きな神社やお寺はありませんが、そういったものが少ない訳ではありません。須賀神社や天翁院など、京都のように街中にあります。

しかし、あまり人々が訪れることがないような気がします。小山評定の地として、また奥の細道の旅で芭蕉が通った地であるなど、歴史の舞台として貴重な存在意義があることなど宣伝すべきではないでしょうか。

例えば、京都のようにもっときれいに整備をする、佐野厄除大師のようにテレビなどで宣伝するなど、工夫できるところがたくさんあります。

また、京都では、桜や紅葉の名所が至る所に点在していました。小山市も「思川桜」をもっと咲かせることができると思います。自然との共存を実感させる、季節の味わいに注目できる場所を作りたいものです。

さらに、小山市の名産を作り、それを土産物の定番になるようPRするなど観光の目玉になるでしょう。

私は、この小山市が好きです。私だけではなく、市民全員が同じ想いだと思います。自然があり、歴史があり、人々が優しい街、小山。この素晴らしい街を全国の人々に知ってほしいのです。将来、小山市が全国に名を轟かすような街になってほしいです。

■アイデア賞■「祇園城歴史館があれば」：小笠原 嶺（小山市・小山中学校2年）

祇園城址は今は城山公園として市民に親しまれている。しかし小山義政が天下を相手に一戦交えたことはほとんど知られていない。一年生の時、学年の皆とウォークラリーをした。有名な史跡を巡るもので、祇園城から始まって天翁院、須賀神社、長福城址、そして鷲城址を周った。長年小山に住んでいながら、この場所で何が起こったのかが全く分からなかった。そして調べて見たところ祇園城は室町時代に、小山義政という人物が足利幕府軍を相手に奮戦した城であることが分かった。ということは祇園城とは歴史を支配した権力者をも動かすことができる、いわば天下の名城だ。今でこそ近代的な建物が並ぶ小山市であるが、この発展の基となったのは祇園城である。そして小山にもう一つ、権力者と関わった出来事がある。戦国最大の関ヶ原合戦の評定の舞台となった「小山評定」だ。この評定で権力者徳川家康は自軍の諸将の団結を高め、見事石田三成率いる西軍を見事破った。つまり小山で行われたこの評定が家康に天下をとらせ、日本史を変えたのである。

小山市には新幹線の通る駅があり、日本各地への窓になっている。そしてこの駅と祇園城は現代と過去を結ぶように祇園城通りで結ばれており、この通りも小山評定通りと交差している。この二つの通りを活用することが、小山の歴史を日本に伝える近道だと思う。

具体的に言うと、二つの通りの活性化をはかること。小山義政の孫、安犬丸を主役とした能「安犬」をもっと多く上演すること。そして祇園城址に歴史館を建て、動乱の日本にあり、天下人とも渡りあった小山義政を地元小山市、栃木県、関東、広くは日本の人々に知ってもらうことだ。

小山義政の戦いを中心として、古くは源平合戦から小山評定までの出来事が詳しく、分かりやすく、見た人に伝わるような歴史館を私は考えている。

入選作品
(小人・絵画の部)



■小山商工会議所奨励賞■

「笑顔があふれる町」：江口 奏
(小山市・小山第二中学校1年)

応募者一覧

<p>一般・デザイン部</p>	<p>甘利 未来(学生(小山高専)) 川岸雄一郎、松村洋考、河野勇也(学生(小山高専)) 岡田美紀子、牛久麻実(学生(小山高専)) 小野真由美(学生(小山高専)) 阿部真理、岩淵恵子、高岩佑圭(学生(小山高専)) 高松 加奈(学生(小山高専)) 板谷 麻里恵(学生(小山高専)) 松本 ひとみ 加藤博史、齋川佳孝、兼子恵市(学生(小山高専)) 上野 悠(学生(小山高専専攻科)) 村上祐太、平山智則(学生(小山高専)) 黒澤スタジオ 代表 黒澤保幸(日本工学院八王子専門学校建築デザイン研究科) 片柳諒、石井桂太、海藤歩(学生(小山高専)) Intan Norlaila、Bui Thien Kim(学生(小山高専)) 小森達也、坪野谷美穂、袖山悟志(学生(小山高専)) 伊東由里子、野川春香、平野有良(学生(小山高専)) 木村京介、吉田徹郎(学生(小山高専)) 柏 卓興(学生(小山高専)) 大塚 裕紀(学生(小山高専)) 川崎 有紀(学生(小山高専)) 石澤知子、毛利由希乃(学生(小山高専)) 瀧村夏美、羽場崎恵(学生(小山高専)) 増山 道子(学生(小山高専専攻科)) 寺岡 俊太郎(学生(小山高専)) 松下 陽(学生(小山高専専攻科)) 鈴木 甫(学生(小山高専専攻科)) 阿部 浩幸(会社員)</p>	<p>古橋 瑠夏(中学1年生) 江口 奏(中学1年生) 室橋 七海(中学1年生) 増田 真子(中学1年生) 大塚 愛佳(中学1年生) 秋山 彩香(中学2年生) 秋山 清香(中学2年生) 金子 悠里安(中学2年生) 福嶋 美幸(中学1年生) 渡邊 佳奈(中学1年生) 和泉 美保(中学1年生)</p> <p>小人・絵画の部</p>
<p>一般・論文部</p>	<p>匿名希望者 木俣 肇(医師) 宮川 央輝(会社員、NPO代表) 中島 一浩(会社員) 斎藤 裕子(専業主婦) 松本 之男(無職) 頼富 雅博(高校教員) 福富 昌之(無職) 増田 政廣(会社員) 和気 健吉(なし) 内山 幸子(フリーター) 高井 哲雄(自営業) 泉澤 文夫 阿部 真人(介護福祉士(フリー)) 森野 秀三(会社員(石材会社勤務)) 尾家 徳次朗(会社員) 出水 周二(会社員) 小山 和彦(会社役員) 石金 昭広(公務員) 嶋田 英治(会社員) 村上 努 (会社員(コンサルティング会社勤務)) 河西 栄治(無職)</p> <p>本郷 修(公務員) 浜田 敏路(無職) 石井 敏浩(自営業) 愛寺業人(会社勤務) 福富 紀子(無職) 新井 重雄(会社員) 鈴木 真人(会社員) 森 貴規(会社員) 野崎 光生(会社員) 加藤 幸生(会社員) 小野 ありさ(一級建築士) 野口 武悟(教員) 岡 ゆり(主婦) 篠原 一嘉(自営業) 中嶋 葉子(中学校教員) 富田守(会社経営) 結城 史隆(教員) 布川 奈津美(学生(小山高専4年)) 鈴木 甫(学生(小山高専専攻科2年)) 塚原 義太郎(ガソリンスタンド) 小板橋 雅之(美術作家) 加藤 丈夫</p>	<p>高松 彩花(中学3年生) 加倉井 樹里(中学3年生) 高橋 ともか(中学3年生) 植木 理絵(中学3年生) 佐瀬 結香(中学3年生) 小笠原 嶺(中学2年生) 川久保 莞爾(中学2年生) 関根 有希(小学6年生)</p> <p>小人・作文部</p>

コンペの概要

■日程

- 平成 18 年 8 月 11 日 コンペ実施の記者発表
- 平成 18 年 8 月 28 日 コンペ案内、ポスター配布開始
- 平成 18 年 8 月 28 日 応募要領配布及び質疑受付開始
- 平成 18 年 9 月 11 日 応募作品受付開始
- 平成 18 年 11 月 2 日 応募作品受付締切（応募作品数 90 点）
- 平成 18 年 12 月 19 日 審査委員会
- 平成 18 年 12 月 28 日 審査結果発表
- 平成 19 年 2 月 4 日 入選者表彰式・第 7 回小山のまちづくりシンポジウム
- 平成 19 年 2 月 4 日 応募作品展示

■提案条件と審査方法

- ・**提案条件** 祇園城通り周辺地区の特性を活かしながら、地区の「魅力と賑わいのある街並み空間の創出」を都市活動全体のイメージ、街並み整備のイメージ、並びに、これらを実現する方策などについて、街並みデザインまたは論文として提案する。
- ・**審査方法** 祇園城通りまちづくりアイデアコンペのテーマである「魅力と賑わいのある街並み空間の創出」にふさわしく、祇園城通りが魅力ある街、賑わいのある街、行ってみたい住んでみたい街となることが既成概念等にとらわれず、自由な発想のもと、次の点について表現されていることを評価要素とし、一次、二次、三次審査と三段階の審査をおこなった。
 - 街並みや活性化など、まちづくりの視点で、魅力あるデザインや表現がなされていること。
 - 地域性に配慮し、歴史、文化、伝統に根ざした提案がなされていること。
 - 人々に夢や希望を与えるものであること。
 - 抽象的でなく具体的でわかりやすいものであること。

審査委員会

- 委員長：瀧澤 雄三（国立小山工業高等専門学校建築学科教授・都市景観審議会会長）
委員：白石 光昭（国立小山工業高等専門学校建築学科教授・都市景観審議会委員）
粕谷 圭司（白鷗大学発達科学部教授・都市景観審議会委員）
岩田 純明（関東職業能力開発大学校建築科教授・都市景観審議会委員）
室井 松子（小山市立間々田東小学校長・都市景観審議会委員）
五十畑充緒（栃木県建築士会小山支部理事・都市景観審議会委員）
小川 亘（小山市議会議員・都市景観審議会委員）
柿崎 正（小山市議会議員・都市景観審議会委員）
清水とみ子（小山市都市整備委員会委員・都市景観審議会委員）
諏訪ちひろ（小山市緑化審議会委員・都市景観審議会委員）
鈴木 廣明（小山商工会議所常議員・都市景観審議会委員）
寺内 佳子（図書館関係団体連絡協議会会長・都市景観審議会委員）
遠藤登代子（とちぎつばさの会小山支部支部長・都市景観審議会委員）
池澤 昭（栃木県土木部都市計画課長・都市景観審議会委員）
高瀬 晴久（栃木県土木部参事兼栃木土木事務所長・都市景観審議会委員）
宇賀神静雄（祇園城通り連絡協議会会長）
坂本 裕則（祇園城通り連絡協議会役員）
小林 英貴（祇園城通り連絡協議会役員）
増山 輝男（祇園城通り連絡協議会役員）
青柳 恵一（祇園城通り連絡協議会役員）

-
- 主催： 栃木県小山市
後援： 小山市商工会議所、祇園城通り連絡協議会
協賛： 小山駅西口商店街連絡協議会（御殿町商店会・駅前通り商店街・上町大通り商店街・本町商店会・城山大通り商店街・みつわ通り中央商店街・VAL 小山店・ロブレ）
事務局： 栃木県小山市役所 都市計画課「まちづくりアイデアコンペ事務局」